

平成23年度 米子白鳳高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

米子白鳳高等学校は午前部、午後部からなる昼間定時制課程（総合学科）と通信制課程（普通学科）を併設する高等学校である。本年度、新たに学校ビジョンとして「めざす学校像」、「めざす生徒像」を策定し、中長期目標を設定し、その実現に向けた学校の前向きな姿勢は評価できる。教職員は生徒に寄り添い教育活動に真摯に取り組んでおり、組織としての学校の力を高めていくことを期待する。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 多様な学習歴による学力差などをふまえ、定時制・通信制課程とも1年次生の少人数指導や学び直しの指導など基礎的な学力の向上に取り組み、授業は学習プリントや視聴覚機器等の活用、学習進度への配慮など個に応じた指導に努めている。
- ② 定時制課程の芸術・農業の科目や総合的な学習の時間は積極的に外部人材を活用し、ものづくり体験や伝統文化の伝承活動、進路学習など特色ある教育活動を展開している。
- ③ 部活動の加入者は少ないが、郷土芸能部は地域の保存会の支援のもと、海外や国内での公演や交流、全国高等学校総合文化祭出場など幅広い活動を展開している。
- ④ 定時制・通信制課程とも生徒の進路意識の向上と厳しい進路実態の改善に向け、進路志望の把握や進路相談の充実、進路情報の収集・提供のための新規事業の推進など進路指導の充実を図っている。
- ⑤ 定時制・通信制課程とも教育相談体制は整備され、相談は複数のチャンネルで、解決に向けてはスクールカウンセラーや医療等専門機関を積極的に活用し、生徒指導部との連携も図られている。
- ⑥ 生徒の出席や履修状況等の早期把握と情報の共有化の体制は整備され、各種文書や個人情報管理の管理・取り扱いは適正に行われ、生徒に対しての措置も考慮されている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 定時制・通信制課程とも授業研究週間を実施しているが、授業展開や指導法の工夫改善についての教職員の共通認識を図り、成果ある計画的、組織的な授業改善の取り組みにしていくことが必要である。
- ② 定時制・通信制課程とも進路指導計画に基づき指導しているが、学校教育活動全体を通じて計画的、組織的、継続的に進めるための進路指導全体計画の策定が必要である。
- ③ 定時制・通信制課程とも問題行動や教育相談内容については、個々の問題やケースについての手順書を作成し全教職員が対応できるシステムの充実が期待される。
- ④ 定時制・通信制課程とも生徒指導の各部面の指導はなされているが、生徒指導は教育課程の内外のすべてにわたって働く機能としての教育活動であり、生徒の実態や課題をふまえ自己指導能力の育成をめざす生徒指導全体計画の策定が必要である。
- ⑤ 教職員は個々の生徒に対応した教育活動に真摯に取り組んでいるが、教育目標実現のためには教職員の学校経営への参画意識、コミットメントを高め、ミドルアップダウン型の組織づくりによる組織運営の活性化を図っていくことが重要である。
- ⑥ 自己評価に関して、各分掌・学年等で自己評価されているが、教職員の「自己評価」に対する意識の向上が望まれる。教職員に対し、PDCAをスパイラルアップさせる方策を示し、成果に繋げる学校全体としての姿勢を示すことが期待される。
- ⑦ 生徒の授業アンケートは実施されているが、教師の指導法等に関する評価項目による教科別授業評価の実施とPDCAサイクルへの取り組みが必要である。
- ⑧ 保護者の学校教育への関心を高め、PTA活動や諸行事への参加と協力を進めるため保護者との連携、協働体制づくりの方策を見出していく努力がさらに求められる。